

様式第3号(第12条関係)

開 催 記 録

名 称	令和5年度第2回吉川市下水道事業審議会
開 催 日 時	令和6年2月2日(水) 午後 2時00分から 午後 3時30分まで
開 催 場 所	吉川市市民交流センターおあしす ミーティングルーム4
出 席 委 員 氏 名	菊池委員、小山委員、遠藤委員、飯塚委員、戸張委員、阿部委員 山本委員、森田委員、大矢委員
欠 席 委 員 氏 名	無
担当課職員職氏名	河川下水道課 課長 多田 文武、課長補佐 曾我 幸央 係長 倉田 孝之
会議次第と会議の公開又は非公開の別	次第：別添参照 公開
傍 聴 者 の 数	無
非 公 開 の 理 由	
資 料 の 名 称	別添参照
開催記録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会議録確認指定者	飯塚貴利委員、戸張加代子委員
その他の必要事項	
内 容	<p>■開会</p> <p>■議事</p> <p>○令和6年度吉川市下水道事業予算について 事務局より「令和6年度吉川市下水道事業予算」について説明。</p> <p>【質疑応答】</p> <p>大矢委員 収入は少なめ、支出は多めに見積もっているという感じがするがそのような理解で良いか。</p> <p>事務局 そのような傾向にあると思う。</p> <p>大矢委員 説明において東口の下水道布設工事が数年のうちに完了することのことだが、その後の管渠の布設替えについては補助金等が無い中で実施するのは財政的に厳しい</p>

	<p>のではないかと思う。</p> <p>東口の病院の進出は決定したのか</p>
事務局	決定していないと聞いている。
大矢委員	病院は水を大量に使用するだろうから、下水道使用料の増加が期待できるのではないか。大量に排水することが懸念されるが、管渠は大丈夫なのか
事務局	管渠については問題ないと考える。また、大量に排水する施設については、一時的に汚水を貯留する施設を整備してもらい、夜間などに徐々に放流するという方法もある。
遠藤委員	現在は、数字上健全であるとのことだが、今後経営戦略の見直し作業に入っていくと思われるが、どんな点をポイントとして見直し作業を行っていくのか。
事務局	経営戦略については、令和2年度に10年計画として策定したものであり、令和7年度に改定作業の実施を予定している。現計画において、資金が不足することは明らかになっている。改定時においては、人口推計の見直しと現計画においても建設単価の高騰は見込んでいるものの、昨今の単価高騰と今後の建設事業費の増額を勘案し、投資計画と財政計画を踏まえ、下水道使用料の改定も視野に入れた経営戦略の改定を行うこととなると思われる。
菊池会長	<p>経営戦略は10年計画で策定し、中間年に改定作業を行うのが一般的である。一般会計では期待値で策定し見込が甘いことが多い。今後策定する経営戦略では人口や水量を厳しく見積もり策定する必要があると思われる。</p> <p>予定損益計算書では、当年度純利益が4700万円ほど出るとのことだが、営業外収入における長期前受金戻入が6億900万円ほど計上されており、これは現金を伴わない収入である。よって実際は6億円近く赤字であると考え。これは吉川市に限らず全国の下水道事業会計に言えることである。数字上のマジックで黒字計上となっており、長期前受金戻入を引いても黒字となる会計を目指すべきである。これを実現させるためには、如何に費用を減らすかということになる。費用で</p>

一番大きいのは減価償却費であることから施設を如何にダウンサイジング化することが全国的にも課題となっている。

貸借対照表の建設改良の財源に充てるための企業債残高が40億円以上あるのに対して、流動資産が6億円しかなく、流動資産の6倍以上残高があるのは少し多いと思われる。ここについても如何に減らしていくべきと思われる。

キャッシュフロー計算書においても投資活動における赤字を本業の黒字でも穴埋めできないので、借入して現金を増やしたという結果になっている。本来のキャッシュフローの在り方は本業で投資を賄って、借入も返済して、それでも現金が余ることが正しい姿と言われているので、それを目指す経営戦略を策定してほしい。

遠藤委員

都市計画税の用途は下水道事業会計のうちどの部分に当たるものなのか

事務局

下水道事業収益における雨水処理負担金、他会計負担金、資本的収益における他会計出資金、他会計負担金が一般会計からの負担金となり、都市計画税が充当されているものと思われる。

菊池会長

水道事業は費用と収益のバランスが取れているが、下水道事業は費用と収益のバランスが取れていない。下水道管の埋設費用は水道管の埋設費用に比べて3倍程度費用がかかる。しかしながら、料金は下水道使用料の方が水道料よりも安いので、その収益の差額分は一般会計が負担するという構造になっており、この構造は下水道事業がスタートした時からのこの状態であり、全国的に同じ状況である。吉川市は管渠が比較的新しいため、今のところ切羽詰まった状況ではないと思われるが、管渠を更新するときには今後どうしていくのかを考えていかないとならないと思われる。

遠藤委員

吉川駅北口の冠水対策について方向性は出ていると思うが、今後の見通しはどうなっているのか。

事務局

検討した対策の実現に向けて、関係機関と協議中である。協議が整った際には、経営戦略や下水道事業計画

	に反映させるものであるが、現在のところその段階には至っていない。
大矢委員	令和5年度において資材の高騰により工事費が上がっていると思うが影響は大きかったか
事務局	労務単価が上昇したことにより、多少の工事費の上昇はあったが、工事計画に支障が出るほどではなかった。
大矢委員	工事費が上がった分、補助金も増えることはあるのか。
事務局	補助金が増えることはない。
小山副会長	現在は、企業債の償還額よりも借入額が多くなっており、企業債残高が増加する状況であるが、吉川美南駅東口土地区画整理地内の下水道管布設工事が令和7年度頃終了後は、借入額と償還額の状況は変化するのか。
事務局	償還額については現在、4億5千万円程度であり、今後についても大きく変動することはないと思われる。借入額については事業の実施状況で大きく変わってしまう。東口の工事終了後は、緊急輸送道路の耐震化工事が未実施となっているため、そちらの方も着手しなくてはならないと考えている。ただし、区画整理事業とは異なり、実施事業量についてはコントロールすることも考えられるので、財政状況を勘案しながら事業を検討していくことになる。また、資本費平準化債については、将来的には負担増となってしまうので、極力借入しないよう検討していきたい。
大矢委員	利率がいつ増えるかわからない。
事務局	令和3年度までは、0.7%で借入できたが、令和4年度については、1.0%を超えてきた。令和5年度においては1.5%を想定しているところ。
小山副会長	下水道管が老朽化した時にダウンサイジングに対応した取り組みはあるのか。
大矢委員	下水道管自体はあまり大きいものではないので、管渠自体を小さくすることはない。
菊池会長	下水道管渠を小さくしたところ、部材の費用は安価になるが、掘削費用は変わらないので、入れ替えるだけで費用はあまり安くはならない。掘削せずに管渠の内側を樹脂でコーティングして管渠更生する工法もあるが、掘削する工法と費用は変わらない。下水道管渠

	<p>の更新費用を安く抑える方法は現在のところない。</p> <p>大矢委員 吉川市は平坦で市街化が続いているので、ダウンサイジングすることが難しい。</p> <p>菊池会長 吉川市は猶予がまだあるので、様々な方策を検討してもらいたい。</p> <p>■その他</p> <p>今後のスケジュールを事務局より説明。</p> <p>○「令和6年度吉川市下水道事業予算」について 令和6年3月議会において審議後、予算承認を受ける。</p> <p>○「令和6年度第1回吉川市下水道事業審議会」について 経営戦略の進捗状況及び令和5年度決算を議案として、令和6年7月下旬ごろ開催予定</p>
--	--

署名委員

氏名

飯塚 貴利

氏名

戸張 加代子